

太陽光建設地に「崖」



大規模な浸食が確認されたメガソーラーの建設現場
=11日、霧島市霧島永水

霧島・永水

雨で浸食、土砂流出 農業被害 住民懸念

霧島市霧島永水で進められている大規模太陽光発電所（メガソーラー）建設現場で、雨による土砂流出が発生、深さ5メートルを超える大規模浸食が確認された。建設業者は工事を一時中断。泥水があふれ田んぼに水張りができないうちも続く。事態を重くみた住民ら12人を募らせている。

人は20日、指導監督強化などを求める要望書を前田終止市長に提出した。梅雨入りすればさらなる浸食の恐れもあり、住民たちは不安を募らせている。

「田植えができなければ死活問題だ」。14日夜、永水地区公民館であった住民説明会。メガソーラーの施工業者・東京エネシス（東京）に対し、地区住民たちから厳しい批判の声が相次いだ。

さらに、近くを流れる手籠川には、泥水が流入。12坪の田んぼを所有する池田昌光さん（61）は「田植えの準備に深刻な打撃。梅雨に入り雨量が増せば再び大量の土砂が流れる恐れがある」と憤りを隠さない。

同市霧島では10日、激しい雨が降り、県の雨量計で午前0時から24時間雨量は133.3ミリを観測した。翌朝、住民が建設現場に駆け付けたところ、雨水が土壌を削り取る「ガリ」による「浸食」によりシラス土壌が大きくくえぐらた。約14.5万平方

の敷地に、13万7千枚のパネルを敷く計画で、昨年5月に着工したが、今回の浸食で建設工事は一時ストップ。調整池に堆積した土砂を撤去し、土砂を沈めるための沈砂池を増設することにした。

現場は鎌田建設（霧島市）の関連会社が所有。かつてゴルフ場や養豚場の計画が浮上したが、中止や白紙となり、東京エネシスが土地を借りて発電事業に乗り出すことになった。約14.5万平方

10年7月の豪雨で手籠川がはんらんし、一帯にある田んぼが泥水に漬かるなどの被害が出た。住民側と業者側が建設の際に交わした覚書には、「1時間雨量126ミリ、12時間総雨量406ミリに耐えうる防災施設を作る」と盛り込まれている。

だが、今回はこの基準を下回る雨量で大規模浸食が発生したことになる。農家で組織する永水地区6水利組合代表の園田義昭さん（73）は「さらに雨量が増えれば、下流域の国分平野でも被害が出かねない」と指摘。永水地区自治公民館長の松元輝美さん（70）も「調整池が機能しなければ、稲作だけでなく、人や家への被害も起きかねない」と心配そうに話す。（山下翔吾）